歴史も! グルメも! 買い物も!!!

#URASOE

浦添市観光ガイドマップ

2023年7月時点

浦添市観光振興課

〒901-2501 沖縄県浦添市安波茶1-1-1

発行

主な浦添市観光地へのアクセス

経路、時刻など詳細はインターネットで参照して ご確認ください。

https://www.busnavi-okinawa.com/top

浦添ブルック・ふるさと村	バス	( )内は(バス経路番号)
	中間バス停(55)から徒歩5分	
浦添美術館	浦添前田駅から徒歩15分	
	モノレール	
浦川ミュージアム・ギャラリー	バス	( )内は(バス経路番号)
	浦川バス停(20、28、29、228、223番)から徒歩8分	
	バス	( )内は(バス経路番号)
	浦川バス停(20、120、28、29、228、223番)から徒歩8分	
ANA BALL PARK 浦添 (浦添 市民球場)	バス	( )内は(バス経路番号)
	多目原前バス停(21、90、98、190番)から徒歩10分	
	港前前バス停(55、56、256番)から徒歩15分	
	中間バス停(55)から徒歩3分	
	モノレール	( )内は(バス経路番号)
	浦添前田駅から徒歩20分	
	浦添前田駅から徒歩10分	
	古島前バス停、古島バス停(21、90、98、190番)+徒歩10分	
	バス停前バス停(21、90、98、190番)+徒歩10分	
浦添カルチャーパーク	バス	( )内は(バス経路番号)
	港前バス停(55、256番)から徒歩15分	
	モノレール	( )内は(バス経路番号)
アムニエル・ミュゼ&ミュージアム 浦添美術館	浦添前田駅バス停、浦添前田駅(バス停)から徒歩6分	
	古島駅バス停、古島(バス停)から徒歩5分	
	古島駅バス停、古島(バス停)+徒歩5分	
	バス停(56、256)+徒歩5分	
浦添美術館	古島駅バス停、古島(バス停)+徒歩5分	
	古島駅バス停、古島(バス停)+徒歩5分	
浦添市養蚕絹織物施設 サン・シルク	バス	( )内は(バス経路番号)
	中城南バス停(101)から徒歩約5分	
浦添市歴史こふれる館	バス	( )内は(バス経路番号)
	浦添前バス停(101)から徒歩約5分	
国立劇場おきなわ	国立劇場おきなわ(組踊)前バス停(339)から徒歩1分	
	国立劇場おきなわ(22、285、303、334、43)から徒歩5分	
	牧港バス停(23、120、24、27、28、29、20番)から徒歩10分	
浦添市歴史こふれる館	バス停(バス経路番号)	
	ブルーシールお花畑バス停、浦川バス停(23、24、28、120番)から徒歩約30分	

暮らすように旅する都市

浦添市

おいしく・たのしく・おしゃれな
魅力いっぱいの店舗をご紹介!

食べる 1～17
パン・スイーツ 18～30
コーヒー 31～33
みる・体験 34～37
買う 38～44
泊まる 45～49

1 沖縄丸鶏製造所 ブエノチキン
チキンを焼き続けて約40年。沖縄県産の若鶏をニンニク入りの秘伝のタレで漬け置きローストしたチキンは、県内外に多くのファンを持ちます。

2 すばやー
屋慶苑で飲んだがには、出汁の効いた沖縄そばが心。時間をかけて、トコトコと煮から揚げた出汁はとても飲みやすく、お酒の後のお腹にも優しく染み渡ります。

3 缶s'バー 久遠（クオン）
全国から取り寄せた100種類以上の缶詰が楽しめる「久遠」。豊富な種類のカクテルや、駐車子食べ放題のサービスも充実。

4 やふそ屋台村 ちょうちん横丁
屋慶苑新スポット、レトロな8店舗の屋台が連なる"やふそ屋台村ちょうちん横丁"。駐車場完備、月曜定休日。

5 酒場 琉球珉（リュウミンミン）
県産豚を使った「琉球珉餃子」や、新鮮な沖縄産ゴーヤーを使った「沖縄ゴーヤー餃子」など沖縄ならではの美味しさを追求したオリジナルの味わいをお楽しみ下さい。

6 大衆割烹 やんばる船
泡盛などがリーズナブルなお値段で楽しめる。地元で人気の大衆割烹。その日に直地直送された海鮮は刺身、焼魚、煮つけでも美味でお酒が進みます。

7 高江洲そば（タカエス）
県内はもちろん、県外の芸能人も沖縄に来た時には通う方が多いこちらのお店。看板メニューの"元祖中じどうふそば"は豚骨と昆布から出汁を取った スープに熱々のゆじどうふがたっぷり。

8 割烹ちばな
地魚・地野菜を和食の調理法で提供し、舌の肥えた人々を唸らせる老舗です。

9 PIZZA HOUSE（ピザハウス）
韓国情緒とクラシカルな雰囲気に満ちた店内では、ステーキなどの正統派アメリカン料理が手頃な値段で味わえます。

10 Cafe Restaurant La Vita（ラヴィータ）
気取りすぎない雰囲気の中で、気軽にランチやディナーが楽しめるとローカルにも人気。個室もあり、お子さま連れの利用にも便利です。

11 Secondo Casa（セコンドカーサ）
「第二の家」とネづけられたイタリアンのお店。気さくで話しやすいオーナー新崎さんのこだわりは、素材の持つよさを引き出すこと。

12 rat&sheep（ラットアンドシープ）
沖縄では、新染みのあるヤギ料理をハンバーグやカレーで親しみやすく食べられるのがこちら。他にも島野菜のグリーンカレーや山原若鶏のグリルなど県産品を使った料理が味わえます。

13 海鮮食堂 太陽（ティーダ）
牧港漁港内にある海鮮食堂、座敷席もありゆったりできます。名物の"ミビだけ天丼"は ボリュームたっぷりで、満足できる一品です。

14 いしぐふー浦添大公園店
浦添大公園展望台の1階にあるこちらの店舗は、アグー出汁を使った沖縄そばが味わえます。オススメの「アグーてびちそば」はコラーゲンたっぷりでやミリキ必至。

15 大長今（デジャングム）
韓国家庭料理を中心としたメニューは50種類以上でどれも本格派。広々とした個室もあり、宴会や小さなお子さん連れでもまわりを気にせず料理を楽しむことができます。

16 OIC(おいしー)食堂
JICA沖縄内にあるこちらの食堂では、世界各国の料理が手軽に味わえ、食の国際交流も楽しめます。

17 麺屋ちぼとぉーんど
沖縄で唯一、浦添市が発祥する桑のそば、月桃のそば、月桃のオコワ、沖縄そばが食べられます！店内では簡官用の月桃の乾燥そば や素麺を販売しています。

18 仲里屋
40年以上続く老舗のさんたんあんだぎぃ～専門店。プレーン・黒糖など味は5種類。冷めても美国はカリッ！やはらめらかーぁ。お土産に☆

19 Cokofu
沖縄の素材をメインに使用した、玄ヤ部などの動物性原料を一切使用しないイーフル、ミルクレープ、パナナジュースかき氷が人気。また、沖縄のくるま麩を使用した沖縄にここだけしかない"麩麩かき氷"の オリジナル麩菓子も人気です。

20 GRIFFON（グリフォン）
25種類ほどのケーキの ほとんどが400円前後。気軽に買える値段が嬉しい地域密着型ケーキ店です。

21 白バラ洋菓子店（ティーダ館 浦添菓子処）
沖縄県内で人気の菓子店「白バラ洋菓子店」。浦添にあるティーダ館では、これまで以上に和菓子の品揃えを充実させてお待ちしております。

22 天食米果（アマショクベイカ）
食パンを一口に言っても種類はとても豊富。常に10種類以上並びます。自家製酵母使用のもっちりした食感が特徴です。

23 Boulangerie à tête（ブーランジェリー アーティット）
ドイツ、イタリア、フランスなどのパンに加え、洋菓子類も豊富。きじむなーの手の形をしたプレッツェルは本場顔定で販売中。

24 ベーカリー アルベンローゼ
『ミルクパンなどが人気のパン屋さん。毎月第4土曜日に行われる教室では、三角巾を巻いたこどもたちが生地をこねたり丸めたり…と、パンづくりに挑戦できます。

25 [oHacorté]港川本店（オハコルテ）
港川ステイツサイドタウンでフルーツタルトと焼き菓子を販売する大人気のオハコルテ。季節のフルーツを使ったタルトは限定・定番を合わせて常に13種類ほどが並びます。

26 喫茶ニワトリ
素材の極みを味わう究極のシンプルかき、お庭でたべる「さちそうのかき氷」。沖縄ぜんざいと季節のシロップかき氷のお店。

27 ブルーシール 牧港本店
アメリカ生まれ、沖縄育ちのアイス。塩ちんすこうなどの沖縄らしいアイスをはじめ、多数のフレーバーをラインナップ！一時休業中【2024年夏頃新装オープン予定】

28 repos（ルポ）
住宅街に佇むこぢんまりとしたケーキから種類豊富な焼き菓子まで、地域の人々に愛される日々のおやつがあります。贈答用のボックスもあるので、おみやげや差し入れにも人気。

29 my sweet box Grin（マイスイートボックスグリン）
旬の味覚が straにケーキから種類豊富な焼き菓子まで、地域の人々に愛される日々のおやつがあります。贈答用のボックスもあるので、おみやげや差し入れにも人気。

30 垣花食品（カキノハナ）
手花28年の"全国主要観光土産品審査会"に、最時ともなるひっきりなしにお客さんが訪れます。お目当ては安全でおいしいパン、天然酵母のパンが豊富で、食パンに至っては、卵、油脂、乳製品不使用。

31 Billion Coffee（ビリオンコーヒー）
地元で親しまれ続けるコーヒー専門店。新鮮な豆を取り寄せ焙煎し、丁寧にハンドドリップしたこだわりのコーヒーを提供しています。ココス・タコライス・ケーキのテイクアウトもございます。

32 K's coffee（ケーズコーヒー）
確かな技術と伝統を継承する職人が一杯一杯丁寧に抽出する美味しい自家焙煎コーヒー専門店。挽きたてを丁寧にドリップした珈琲の味は格別。

33 沖縄セラードコーヒー Beans Store（セーラーズコーヒー）
約30年に渡って、地元で愛され続ける自家焙煎のコーヒー専門店。こちらのコーヒーの特徴は、口当たりがすっきりとして飲みやすいことと。

34 浦添市歴史にふれる館
市内の遺跡から出土した遺物や、昔懐かしい生活道具を展示しています。特に様々な甕子（シーク）屋（ガー）は必見！

35 ブルーシール アイスパーク
一時休業中。
【2024年夏頃新装オープン予定】

36 浦添グスク・ようどれ館
浦添城跡のガイダンス施設です。浦添グスク、浦添ようどれの出土品や観前のパネルなどを展示しています。

37 浦添市養蚕絹織物施設 サン・シルク
花咲見やキナイクゆ結で、優しい風合いの織物にふれてみてはいかがでしょうか。

38 LEATHER BASE（レザーベース）
作り手が革小物を最新から最製までその工程をすべてを一つ一つ真心を込めて自分たちの手で仕上げています。うらそえ織を取り入れた商品も作っています。

39 Proots（プルーツ）
島や食品、布小物など、セッシュあふれる品々はお土産にも喜ばれそう。店内にはカフェスペースも併設し、県産素材を使ったドリンクやケアイスが楽しめます。

40 PORTRIVER MARKET（ポートリバーマーケット）
店内には、雑貨をはじめ、沖縄のやちむんや特産品など、東京から移住してきた素夫妻のセレクトする商品が所狭しと並びます。

41 カーサマチルダ トイ アンド フレンズ
国内外の楽しいおもちゃ・珍しい木製雑貨で、大人もこどもも虜の品揃え♪ 店頭にはカプセルトイマシンがあり、いつでもオリジナルのおもちゃが購入できます♪ オレンジ色の建物が目印です♪

42 食品加工店 プカプカプーカ
県産原もの100%使用し無添加で作る安心なパーキンやパンプキンパイ、ミルクジェラート、ケーキ類、ジャムなどの商品は、子どもを持つ方にも大人気。ーキ子フ丁寧に手作りされるクッキーセッシュはバラエティ豊富。贈り物にも喜ばれ、小児用のパックも販売。

43 手作りの店 トミ屋工房
「トミちゃんのシーサー」は言葉と「手彫んくてあたりまえよ」という想いで、心こめて一つ一つ手彫りされています。トミ屋工房」ならではなセットキチ手表現で、ほんの多をピーナッツの風味を楽しめます。贈り物にも喜ばれ、小児用のパックも販売。

44 沖縄宝島 浦添パルコシティ店
沖縄の楽しい・おいしいが詰まった、沖縄の物産を取り扱う専門店。定番からちょっと変わったおと産まであなただけの宝を見見してください！

45 HOTEL Y'RISE TO URASOE
全室キッチン、家具、家電付き、コンドミニアム型のデザイナーズで暮らすようなホテルスタイルをお楽しみいただけます。

46 ホテルキング
国道58号線沿いにある立地。さまざまな食事が楽しめる屋富祖大通りの入り口にビネス・観光にどうぞ♪

47 ホテル アラクージュオキナワ
空港から約25分、西海岸の美しい景色を臨むシティーリゾートし人気観光スポット"港川ステイツサイドタウン"や北谷エリアにも簡単アクセス。

48 アルセ琉球ハーバーステイ
シングル、ダブル、ツインのお部屋には本格厨房設備。1泊から長期泊、多彩な宿泊プランでご利用頂けます。

49 D-and Stay.5Resort Okinawa
浦添市前田の地に6階建てのホテル。各階1室プライベート型で66㎡の広さを有し、一部屋に最大6名様まで滞在できます。

てだこまつり（毎年10月実施）

「てだこ」とは沖縄の方言で「太陽（ていだ）の子」を意味する言葉。「てだこまつり」の名は、浦添の地で誕生したといわれる中山王 英祖の神号「英祖日子（えそのてだこ）」にちなんだものです。「浦添市民のまつりを作っていこう」という目的で毎年開催されるこのまつりは、市や地域住民、市内の事業所などが一丸となった実行委員会が主催して浦添三大王統まつり、てだこ演舞まつり他、ローカル色溢れるイベントが盛りだくさん。まさに太陽のように浦添市がキラキラと輝く特別な期間となります。

浦添市年間イベント

てだこウォーク（毎年2月実施）

琉球王統発祥の地として大交易時代の扉を開き琉球王国450年の礎を築いた輝かしい歴史を背景に11万余市民のホスピタリティで開催する沖縄県内最大級ウォーキングイベント てだこウォーク。浦添城跡などの歴史的な史跡を巡るだけでなく浦添西海岸道路やキャンプキンザーの米軍基地内を巡るコースなどバリエーション豊かなコースがあり、県内外からの参加者で賑わいます。

東京ヤクルトスワローズ春季キャンプ（毎年2月実施）

毎年2月の約1ヶ月間、プロ野球東京ヤクルトスワローズの春季キャンプがANA BALL PARK浦添で行われ、県内外から多くのファン、観光客が訪れます。プロ野球選手の練習風景を近くで見られる他、練習試合、オープン戦も行われます。野球ファンはもちろん、そうでない方もぜひ訪れてエキサイティングな体験をしてください。

琉球国中山の王都 浦添
歴史と自然と文化財

JAPAN HERITAGE
日本遺産

2019年に沖縄県（浦添市・那覇市）のストーリー「琉球王国時代から連綿と続く沖縄の伝統的な「琉球料理」と「泡盛」そして「芸能」」とストーリーを構成する文化財29件が文化庁の日本遺産に認定されました。「日本遺産」とは、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定し、有形・無形の文化財を一体的に活用し、地域の活性化と観光振興を図ることを目的としています。

琉球王統発祥の地である浦添市は、ストーリーを構成する文化財が数多くあり、日本遺産のストーリーとともに「琉球王国」の歴史を感じられます。

いにしえの王都・浦添市

浦添市は沖縄本島南部、那覇空港のある那覇市の北、普天間基地を有する宜野湾市の南に位置しています。市域の東側は丘陵地で西側に向かって緩やかに傾斜し、東シナ海の海岸へ続いています。面積は約19平方キロメートル、人口は約115,263人（令和5年6月末）を数えます。

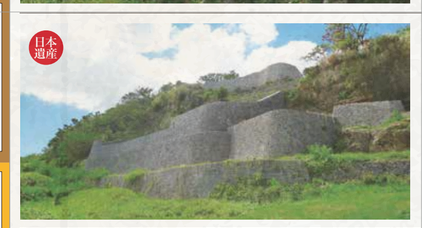
鎌倉時代から室町時代にあたる1,200～1,400年頃には、首里以前の琉球の王都として舜天、英祖、察度といった王統のもと、貿易や文化の中心として栄えていたと伝えられ、琉球史においても重要な位置を占める地でもあります。「津々浦々を襲う（支配する）」を意味する浦襲【うらおそい】が浦添【うらそえ】の語源とされます。

現在では、昔ながらの商店が立ち並ぶ屋富祖をはじめ、外国人住宅を改装したおしゃれなお店の多い港川、琉球の古いまち並みを感じさせる仲間など、特色のある地域の多い街となっています。

日本遺産

1.浦添城跡

13世紀末に造られたグスクで、中山（沖縄本島中部）を勢力下におく支配者の拠点と考えられています。14世紀後半から15世紀前半ころには大規模なグスクになりました。政権拠点が首里城に移った後の16世紀には第二尚氏第三代の尚真王の長男である尚維衡が住み、それ以降は彼の子孫が屋敷を構えていたようです。しかし1609年の薩摩侵入の時に焼け落ちてしまいました。1945年の沖縄戦ではグスクがある丘陵は前田高地（米軍にはハクソー・リッジ）と呼ばれ日本軍の陣地となったことから激戦地となり、残っていた石積み城壁などは失われました。



日本遺産

2.浦添ようどれ

浦添城跡内にある王の墓で、別名を「極楽陵（ごくらくりょう）」といいます。13世紀に造られた英祖王（在位1260～1299）の墓といわれており、1620年に尚寧王（しょうねいおう）（在位1589～1620）により改修されました。崖にある二つの横穴を石積みで塞いで墓室にした墓で、さらに周囲を石積みで囲っています。墓室は西側（向かって右）の西室が英祖王陵といわれ、東側の東室に尚寧王と彼の一族が葬られています。墓室には骨を納めるための石製の厨子が安置されています。「ようどれ」とは琉球の言葉で「夕凪」を意味しており、その静かで穏やかなイメージから「墓」の意味に用いられているといわれています。墓室内部は非公開ですが、「浦添グスク・ようどれ館」に西室内部を再現しています。

日本遺産

3.伊祖の高御墓

崖の中腹の洞穴を利用し、その前面を石積みで塞いだ墓です。墓口が広い古い形式の墓で、英祖王の父・恵祖世主（えそのよのぬし）と3人の按司（地域の支配者）が葬られているといわれています。近くに浦添具塚があり、古代にはこの洞穴が住居であったと考えられています。

日本遺産

4.牧港テラブのガマ

地元ではテランガマと呼ばれる琉球石灰岩の自然洞窟です。内部は拝所で、洞窟の外の前庭は牧港の殿（祭祀場）と推測されています。伝説では12世紀後半に琉球に来た源為朝は、大里按司の妹と結婚し男の子が生まれます。やがて為朝は浦添の港から船に乗り帰郷しますが、残された妻と子はこのガマで為朝の帰りを待ちわびたともいわれています。それ以来この地は「待港」と呼ばれ、転じて「牧港」になったということです。男の子の名前を尊敬といい、後に王位に就き舜天と呼ばれます。

日本遺産

5.玉城朝薫の墓

玉城朝薫は1718年（34歳）に、冊封使歓待のため踊奉行に任ぜられ、この時に「組踊」というこれまでにない音楽・舞踊・台詞を総合的に取り入れた琉球国歌舞劇を生み出し、組踊の創始者として知られています。

この墓は、庭の石積みなどが曲線を描くのが特徴的で、亀甲墓が成立していく17世紀後半から18世紀前半に作られたと考えられます。

6.伊祖城跡

伝承では英祖王父祖代々の居城で、英祖王もここで生まれたといわれています。所々に切石積みや野面積みの石積みが残っています。発掘調査が行われていないため詳しいことは分かっていませんが、グスク土器、中国製陶磁器などが発見されています。

7.当山の石畳道

浦添城跡やようどれのほど近くにある当山の石畳道は、首里と本島中部をつなぐ「普天満参詣道」の一部。琉球王国時代、国王はこの道を通って首里城から普天満宮へと参詣したといわれています。現在修復保存されている部分は全長約200m・幅3mほどですが、「馬ドゥケーラシ（馬転ばし）」と呼ばれる、馬が転ぶほどの急坂がある交通の難所として知られていました。

日本遺産

8.安波茶橋（中頭方西海道）

首里城から続く琉球王国時代の宿道で、本島北部まで続く当時の主要道路でした。現在は安波茶橋と石畳道が修復・保存されました。安波茶橋は小湾川上流に架けられた南橋とアブチ川に架けられた北橋からなります。この橋がいつできたのか、はっきりしませんが、1597年に首里平良から浦添グスクまでの道を整備したときに造られたと考えられます。近くには赤い皿で清水を汲み国王に差し上げたとされる井泉「赤皿ガー」があります。